



特集

(写真中央左から)名市大未来プラン2021 担当の平嶋尚英教授、横山清子教授、三澤哲也教授と、各チームリーダーの教職員(→P1)

特集① 「名市大未来プラン2021」が完成!

特集② 名古屋市立東部医療センター・西部医療センターの
大学病院化に向けた進捗状況

特集③ 開学70周年記念事業 報告

特集④ 「進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)」
2021年度より基本コース、専門コースを開講

01 特集

03 TOPICS

05 学生の活躍

06 国際交流

07 受賞関連/寄附顕彰

DONATION

あなたの力が支えます。

ご寄附のお願い

名古屋市立大学では、高いレベルの教育、研究、医療などの活動を展開し、市民に開かれた大学づくりを実践していくために、寄附金を募集しております。

問合せ：事務局総務課

tel.052-853-8005

01

「名市大未来プラン2021」が完成!

2021年2月に「名市大未来プラン2021」を策定しました。これは、2014年に「名市大未来プラン」を策定してから6年が経ち、大学の現状や社会情勢の変化を踏まえて、大学が進むべき方向性を長期的に示すために策定したものです。

策定にあたっては、全学から教員、メディカルスタッフ、事務職員、さらには2021年4月から大学の附属病院となる東部・西部医療センターの方々など、およそ100名が参加し議論を重ねました。

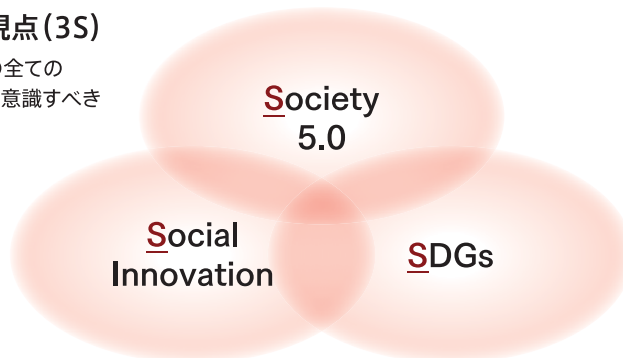
今後、この「名市大未来プラン2021」の実現を通して、名市大の明るい未来を切り拓いていきます。



「名市大未来プラン2021」の概要

①3つの視点(3S)

大学の今後の全ての活動において意識すべき重要な視点



■Society 5.0

人工知能やデータベースを利用して人とモノがつながる社会

■Social Innovation

既存の解決法より効果的・効率的かつ持続可能な、社会問題に対する革新的な解決法

■SDGs

Sustainable Development Goals. 持続可能な開発目標

②48のプラン

以下8領域で策定した、大学が今後実現を目指す48のプラン

【8領域と、各領域のキーワード】

1. 教育：学修者本位の教育の実現
2. 研究・産学官イノベーション：先端的な研究による産学官イノベーションの創出
3. 社会貢献：名古屋に育てられ、名古屋をつくる大学
4. 国際化：地域に根ざしたグローバルな活動の展開
5. 医療：卓越した高度先進医療の提供と地域包括ケアの推進
6. 経営基盤：将来の発展を見据えた持続可能な経営基盤の確立
7. 組織マネジメント：社会の変化と多様化に柔軟に適應できる組織づくり
8. MIRAIへの展開：時代の一步先をデザインし、進化し続ける大学

02

名古屋市立東部医療センター・西部医療センターの大学病院化に向けた進捗状況

2021年4月の名古屋市立東部医療センター・西部医療センターの大学病院化に向けて、大学では2020年9月に大学病院化準備委員会を設置し、学内外関係部署と連携を図りながら、準備を進めてまいりました。

両センターの名称は、大学病院であることを明示するとともに、12年以上にわたり市民の皆さま

まや医療機関に親しまれ、ブランドとして定着していることから「名古屋市立大学医学部附属東部・西部医療センター」に決定しました。

また、共通の上位理念である大学憲章のもと、各病院の特長や大学病院群としての統一感を持たせた新たな理念・基本方針が策定され、新しく決定した3病院長のもとで、その実現に向

け一丸となって取り組んでいくこととなります。大学病院化まで残り僅かとなりましたが、大学病院化によるメリットを活かし、これからもより多くの市民の皆さまに高度で安全な医療を提供することで、名古屋都市圏の医療・福祉のさらなる向上に寄与してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

03

開学70周年記念事業 報告

「名古屋市立大学70年史」特設サイトを公開しました

名古屋市立大学は、1884年(明治17年)に誕生した名古屋薬学校を源流に持つ名古屋市立の名古屋薬科大学と、1943年(昭和18年)に誕生した名古屋市立女子高等医学専門学校を源流に持つ名古屋女子医科大学が統合して、1950年(昭和25年)に開学し、様々な変革を経て歩みを進めてまいりました。開学70周年を記念して、これまでの名古屋市立大学の歩みを回顧し、大学の将来を見据える礎として「名古屋市立大学70年史」特設サイトを公開いたしました。



「名古屋市立大学70年史」特設サイト
トップページ



↑詳細は
こちらから

各キャンパスの施設整備を行いました

開学70周年記念事業の一環として、各キャンパスの施設整備を行いました。前号で紹介した学生会館のリニューアルの他に、右記の場所を整備しました。新しく生まれ変わった本学施設を是非ご覧ください。



川澄キャンパス
医学部厚生学生会館西側エリア整備



田辺通キャンパス
記念ポール時計およびモニュメント設置



北千種キャンパス
福利厚生棟南側広場の整備

川澄キャンパス

- ・医学部厚生学生会館西側エリアをレンガを使用して整備、ベンチなどの改修
- ・看護学部棟正面玄関の庇および内部の天井張替え

田辺通キャンパス

- ・正面ロータリー奥に記念ポール時計およびレンガを使用したモニュメントを設置
- ・薬友会館玄関周辺をレンガを使用して整備

北千種キャンパス

- ・福利厚生棟南側広場をレンガを使用して整備

04

文部科学省採択事業「**進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)**」 2021年度より **基本コース、専門コース**を開講!

ティーブ

進化型実務家教員養成プログラム

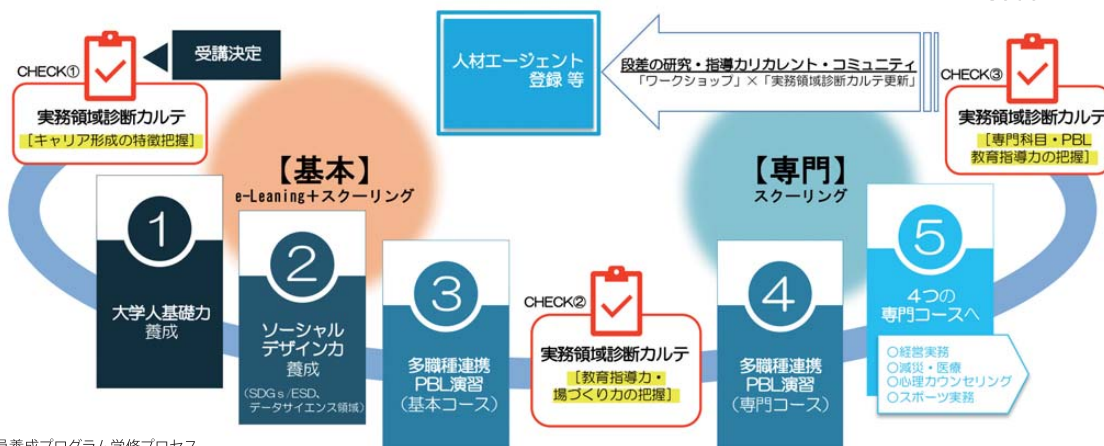


「進化型実務家教員養成プログラム」は、Society5.0と高度化する実務に呼応した大学における実践的な学びの場の創出と人材開発を目指した「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」(文部科学省)の一つとして2019年度に採択されました。本学をコンソーシアム中核校とし、連携校の岐阜薬科大学、高知県立大学、中京大学が企業等の協力を得て、2023年度までに実務知に基づく学生への教育や社会人のリカレント教育を担う「実務家教員」の養成を目指します。本事業の特色は、実務家の経験を活かした教

育を実現できるよう「実務領域診断カルテ(ポートフォリオ)」と「基本コース」・「専門コース」2段階での「履修証明プログラム」を用意していることです。実務領域診断カルテでは実務知の特長を明確にし、基本コースでは実務家の「教育力」の向上を担い、専門コースでは「新領域(新学術領域)での解決力」の涵養、地域のステークホルダーと「共育」環境を整備する力を強化します。これまでモニターを募り養成プログラムの開発を進めてきましたが、いよいよ2021年4月より正式に養成プログラムを開講します。受講生は、

図の学修プロセスにそって実務家教員としての能力獲得を目指します。基本コースでは、複数の研究科に所属する教員が協力する人間文化研究科「都市課題プロジェクト研究」の科目等履修生として学びます。また2021年度後期には、基本コース修了者が経験に応じた学びを深める専門コース(コンソーシアムに参画する大学の特色を活かした経営実務コース 滅災・医療コース 心理カウンセリングコース スポーツ実務コース)を開講する計画です。詳細は、ホームページをご覧ください。

TEEPホームページは
こちらから→



進化型実務家教員養成プログラム学修プロセス

DATE 2020.11.15

「新型コロナウイルス感染症に関する連携と協力に関する協定」を締結しました

2020年11月15日(日)、本学は、愛知県および愛知県内において医学部と病院を有する3大学(国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学、学校法人藤田学園〔藤田医科大学〕、学校法人愛知医科大学)と、「新型コロナウイルス感染症に関する連携と協力に関する協定」を締結しました。愛知県公館で行われた協定締結式において、大村秀章愛知県知事から「第三波とも言える感染拡大の状況にオール愛知で乗り切りたい」との挨拶がありました。本学をはじめとする4大学は、新型コロナウイルス治療を専門とする県立愛知病院への医師派遣などの協力を行っており、今後さらなる連携・協力を行ってまいります。



郡学長(左から2人目)と愛知県・大村知事(左から3人目)

DATE 2020.11.10 / 12.23

名古屋市立大学 × 名古屋市文化振興事業団 連携協力協定締結記念シンポジウムを開催!

2020年11月10日(火)、地域文化の保存・継承や学生の文化活動を推進すべく、名古屋市文化振興事業団と連携協定を締結しました。これまでも全学教養教育やインターンシップ、学外実習などで名古屋市文化振興事業団の協力を得てきましたが、今後は、市民向け講座や文化芸術に関わる大学の多角的な活動を、同事業団が管理する劇場やウェブプラットフォームでさらに積極的にアピールしていきます。

12月23日(水)には、感染症対策を徹底し、瑞穂文化小劇場で記念イベント「withコロナ時代の劇場と地域文化」を開催しました。人間文化研究科と芸術工学研究科の教員が同事業団の棟方三代氏とともにシンポジウムに登壇し、大学院生が日頃の研究をもとに音楽パフォーマンスを行いました。学生サークルMAROとアユチ雅楽会による催馬楽上演も実現し、賑やかな時間となりました。シンポジウムとパフォーマンスの全記録が高画質の動画として、同事業団公式YouTubeチャンネル「SMILE x SMILE NAGOYA」に掲載されています。



学生サークルMAROとアユチ雅楽会による催馬楽上演



↑シンポジウム
当日の動画は
こちらから



人間文化研究科2年 打楽器奏者
林美春さんによるギター演奏

DATE 2020.12.15 / 2021.2.8

都市政策研究センターが「2020年度連続セミナー」を開催しました

2020年度連続セミナー「激変時代の都市政策」を名古屋市および近隣自治体の職員らを対象としてオンラインにて開催しました。今年度は、第1回を2020年12月15日(火)に、医学研究科 大谷隆浩講師が「『破壊的技術』としてのAI・IoTの可能性」をテーマとして開催し、AI・IoTの概論・現状や活用のステップについて講義をしました。また、第2回は2021年2月8日(月)に、経済学研究科 中山徳良教授が「激変時代の公民連携のゆくえ」をテーマとして開催し、経済学的な観点から公民連携の課題と展望について講義をしました。受講者からは「現状を知ることができ知見が広がった」、「新しい視点を持つことができた」などの声が寄せられました。今後も都市の課題に関する情報の発信を進めていきます。



第1回 大谷講師の講義の様子



第2回 中山教授の講義の様子

DATE 2021.1.18 - 1.24

都市政策研究センターが 「2020年度シンポジウム」を開催しました



遠藤和重所長の基調講演



パネルディスカッションの様子

「SDGsの達成に向けた都市の役割」をテーマに開催したシンポジウムを2021年1月18日(月)から24日(日)までYouTubeにて配信しました。国際連合地域開発センターの遠藤和重所長による「SDGsと都市の役割」をテーマとした基調講演に続いて、パネルディスカッションでは経済学研究科の鶴岡宏成教授のコーディネートのもと、芸術工学部卒業生でもある株式会社Rebuilding Center JAPANの東野唯史氏、名古屋市総務局長の中田英雄氏、人間文化研究科の伊藤恭彦教授の3名が、産官学のそれぞれの立場からSDGsの推進に向けて議論を交わしました。受講者からは「SDGs推進の経緯と背景、現状を認識した」などの声が寄せられました。当センターでは、今後も都市の課題に関する情報の発信を進めていきます。

DATE 2020.12.13

総合生命理学部 サイエンスパートナーシップ「物質科学と生命科学のリテラシー」を開催



理学研究科 湯川研究科長による開催挨拶と総合生命理学部の紹介

2020年12月13日(日)、中高生を対象に名古屋市科学館でサイエンスパートナーシップイベント「物質科学と生命科学のリテラシー」を開催しました。

本学 理学研究科 片山詔久准教授の講演「教科書から学ぶ、科学と統計のリテラシー」と、名古屋市科学館 山田厚輔学芸員の講演「水にみる科学リテラシー」を、それぞれ簡単な実験を交えながら行いました。また、講演後には例年実施の科学館展示自由観覧のほか、「はやぶさ2」や流星群など時宜を得たプラネタリウムの鑑賞が行われ、参加者らの熱心な様子が伺えました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、検温ならびに消毒などを行いました。また、プラネタリウムは十分な換気などで予防対策が行われていることを、科学的に説明しました。参加型イベントが少ない中での貴重な機会だとの評価をいただき、コロナ禍でも、科学リテラシーを正しく理解してもらうことができました。

DATE 2020.10.31 / 11.7

総合生命理学部

「中学生プログラミング教室」を開催しました

2020年10月31日(土)、11月7日(土)の2日間、理学研究科 渡邊裕司准教授が人工知能のプログラミング教室をオンラインで開催しました。27名の中学生が、プログラミング言語Python(パイソン)を用いたプログラミングの基礎から機械学習を用いた手書き文字の認識までを学びました。演習では、各中学生が入力したプログラムを講師や大学生チューターとリアルタイムで共有することによって、中学生はアドバイスを聞きながらプログラムを入力しました。オンラインでの実施のため、受講者の直接の反応が分からない難しさがありましたが、プログラミングや人工知能への関心を深めてもらういい機会となりました。



アドバイスする大学生チューター

DATE 2020.12.5 - 12.12

アートでもっと病院を元気に!! 「ヘルスケアアート・ウィーク2020」を開催

2020年12月5日(土)から12日(土)にかけて、医療福祉の療養環境向上に向けた情報交換と、未来の展望を語る「ヘルスケアアート・ウィーク2020」を開催しました。受講生による実践的な事例発表、マスキングテープを用いた壁面装飾の効果、病棟の病室(4人部屋)への効果的なアートの導入方法を巡ってオンライン上で議論を交わしました。同時にオープンさせた「オンラインギャラリー」は、これまで蓄積したヘルスケアアートの事例を一覧できる日本初のウェブサイトとなりました。最終日には、ホスピタルアートディレクターとして活躍する森 合音さん、本事業の実行委員長である芸術工学研究科 鈴木 賢一教授に、郡 健二郎 学長も加わり、ヘルスケアアートの展望についてディスカッションを行いました。実行委員会から「ヘルスケアアートは風のように」という普及啓発に向けた宣言文を発表するなど、本学から全国に向け新たな風の吹く1週間となりました。



オンラインギャラリー(ヘルスケアアートの事例集)



↑オンライン
ギャラリーは
こちらから

DATE 2020.11.12

第13回 教育改革フォーラムをオンラインで開催しました

2020年11月12日(木)、明治大学より教学企画事務室参事の山本幸一氏をお招きし、「教学マネジメントを支援するIR-意思決定を支援するデータの活用」をテーマにご講演いただきました。講演後に実施したアンケートでは「データの分析・評価の方法が参考になった」、「データマネジメントの重要性を再確認できた」などの声が多く聞かれ、好評を博しました。今回の講演を踏まえ、教育の質保証や教育改革などの意思決定をするために、データをより有効に活用できるよう、各学部・研究科と高等教育院が意見交換しながら、今後も教育改善に取り組んでいきます。

明治大学 14

明治大学におけるIR：意思決定支援と意思決定

Q IRの役割って、何ですか？

A 大学や学部**IR部門**へ、意思決定に必要な情報（「議論を生み出す」素材）を提供することです。情報を活用する（議論、判断）のは、**各部門の役割**です。

IR活動は、執行部の依頼に始まり、執行部の意思決定で終わる

明治大学IRデータカタログより (出典) 藤原宏司 (2015) 「継続的改善活動におけるIRの役割」第7回EMIR勉強会資料から作成
講演会資料の一部

市民交流団の一員として本学学生が陸前高田市に派遣されました

課外活動団体「名古屋市大学生消防団名古屋市立大学分団」の経済学部 マネジメントシステム学科2年 鶴飼沙和さんと経済学部 会計ファイナンス学科2年 宇田まいさんが、名古屋市の市民交流団の一員として、岩手県陸前高田市に派遣されました。参加した学生は、同市内で津波発生時の避難経路を実際に歩いて確認したり、両市の代表者による被災時の活動や防災の取り組み事例発表会に参加したりして、地震や津波から「いかに命を守るか」について理解を深めました。

「障害者問題研究会」が 文部科学大臣表彰を受賞!

2020年12月8日(火)、長期間にわたり障害者の生涯学習支援活動の普及および発展のために貢献し、顕著な成果を上げた団体を表彰する「令和2年度『障害者の生涯学習支援活動』に係る文部科学大臣表彰」において、課外活動団体「障害者問題研究会」が表彰を受けました。障害者問題研究会は、1978年の団体結成以来、学生が企画運営するボランティア団体として、「仲間」と呼んでいる障害者の方々との交流活動を続けてきました。このたびの受賞は、これまでの42年間の活動が認められたものです。今後も障害者問題研究会の活躍と発展を期待しています。

「障害者問題研究会」OBで顧問を務める戸澤啓一教授(写真左)と、現役部員



芸術工学部

芸術工学部学生が 「新型コロナウイルス関連商品」を企画開発!

芸術工学部の必修科目「芸術工学実習D6」において、地元企業と学生の共創による新型コロナウイルス関連商品の企画開発が行われました。株式会社鳥越樹脂工業(一宮市)と、株式会社アメイズプラス(名古屋市)の協力のもと、学生たちから15案の新製品提案が行われました。最優秀賞は産業イノベーションデザイン学科3年 渡邊涼太郎さんの「Plent」で、水の減りを表情で伝える水耕栽培用のプランターです。在宅時間が多くなったことで観葉植物が注目されている点に着目し、植物への愛着が増すデザインが評価を得ました。本提案は2021年度の発売に向けて、現在、開発が進められています。

最優秀賞 受賞作品「Plent」

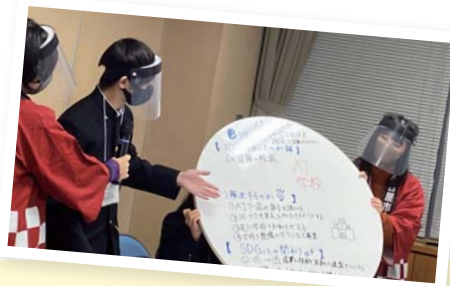


人文社会学部

人文社会学部学生が瑞穂区の高校生向け「SDGsワークショップ」を開催!

人文社会学部 三浦哲司准教授のゼミでは「SDGsとまちづくり」をテーマに、名古屋市内で調査・研究を進めています。現在はゼミでの研究成果を社会に還元する狙いから、独自のワークショッププログラムを構築し、高校生を対象に実践しています。今回は2020年12月に瑞穂区内の高校生26名を対象として、「瑞穂区のみちづくり」を題材にワークショップを開催しました。参加した高校生からは「環境に配慮しつつ、経済循環も重要だと認識した」などの感想が寄せられました。この取り組みは、2021年度以降も継続していく予定です。

話し合いをふまえた高校生の発表



本学留学生による絵本の読み聞かせ 「せかいのことばでおはなし会」を開催!

2020年12月12日(土)、鶴舞中央図書館主催、本学国際交流センター協力のイベント「せかいのことばでおはなし会」が鶴舞中央図書館で開催されました。感染症対策のため定員を縮小し、4歳前後のお子さんと保護者ら合わせて15名に参加いただきました。中国・韓国・ベトナム出身の本学の留学生達が、それぞれの母国語で絵本の読み聞かせを行った他、母国の紹介や数字の数え方も一緒に学び、留学生と子どもたちが交流する姿も見られました。

読み聞かせをした留学生の皆さん



令和2年度「瑞躍賞」受賞者が決まりました

課外活動や社会貢献活動において、顕著な功績のあった学生や団体を表彰する「瑞躍賞」に、2020年度は6組(個人・団体)が選ばれました。これからもみなさんの活躍を期待しています。

〈令和2年度「瑞躍賞」〉

課外活動部門

- バスケットボール部(男子): 東海学生バスケットボール秋季大会3部 オープントーナメント 3位
- 名古屋市大学生消防団名古屋市立大学分団: 第6回 学生団体総選挙地域活性・地方創生部門 準グランプリ
- 木村 野乃花さん(人文社会学部2年): 第40回全日本学生将棋女流名人戦 優勝
- 斎藤 俊さん(経済学部1年): そろばんオンライン全国大会(第1回・第2回) 1位

社会貢献活動部門

- 障害者問題研究会: 令和2年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る 文部科学大臣表彰
- 筒井 亜美さん(経済学部4年): 「とよたPR大使」としての顕著な活躍

学生の受賞

※学年は受賞時

医学部

第63回 日本神経化学学会大会 学部生ポスター優秀賞

<受賞者>

医学部4年
石戸 裕梨さん(写真左)
医学部5年
五軒矢 桜さん(写真右)



薬学部

第6回 次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム 優秀研究発表賞

<受賞者> 薬学部 医薬品安全性評価学分野 薬学科6年
高田 和季さん(写真左)
半田 有紀さん(写真右)



大学院 薬学研究科

日本動物実験代替法学会 第33回大会 学生優秀演題賞

<受賞者>

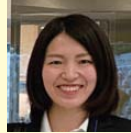
薬学研究科
レギュラトリーサイエンス分野
博士前期課程1年
鈴木 政晴さん



令和2年度 日本排尿機能学会河邊賞

<受賞者>

薬学研究科
病院薬剤学分野
博士課程4年
前田 琴美さん



第71回 コロナIDおよび界面化学討論会 オンライン学生講演賞

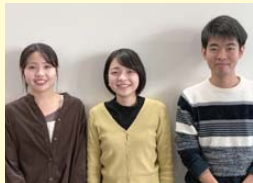
<受賞者> 薬学研究科 コロナID・高分子物性学分野
博士前期課程2年
藤田 みのりさん



第93回 日本生化学会大会 若手優秀賞

<受賞者>

薬学研究科 分子生物薬学分野 博士前期課程1年
森田 敬子さん(写真左)
和田 万理子さん(写真中央)
薬学研究科 病態生化学分野 博士前期課程2年
重信 奉文さん(写真右)



芸術工学部 大学院 芸術工学研究科

一般社団法人建築設備技術者協会 中部支部創立30周年記念 学生コンペ 佳作

<受賞者>

芸術工学部 建築都市デザイン学科4年
鈴木 笙悟さん(写真)、森 まりさん、寺澤 梨瑛さん
芸術工学研究科 博士後期課程1年
吉岡 沙野さん
芸術工学研究科 博士前期課程1年
Afifa Yuniarさん



芸術工学部

2020年度 日本造園学会中部支部大会 優秀学生発表賞

<受賞者> 芸術工学部 建築都市デザイン学科4年
村西 凱さん



大学院 芸術工学研究科

2020年度 支部共通事業 日本建築学会設計競技 一外との新しいつながりをもった住まい 佳作

<受賞者> 芸術工学研究科 博士前期課程1年
四方 勤太さん(写真右下)
喜納 健心さん(写真左下)
片岡 達哉さん(写真左上)
岡田 侑也さん(写真右上)



人文社会学部

東海学生Award2020 PICC賞

<受賞者> 人文社会学部 現代社会学科3年
中谷 唯人さん



国際交流

INTERNATIONAL ↔ EXCHANGE

ミシガン州立大学の「日本語・英語言語交流会」に本学の学生が参加しました

2020年10月11日(日)、18日(日)、25日(日)に、大学間交流協定校のミシガン州立大学(アメリカ)の「日本語・英語言語交流会」がオンラインで開催され、3日間合計で37名の本学学生が参加しました。さらに国内の他大学学生に加え、ミシガン大学(アメリカ)、ボール州立大学(アメリカ)、マギル大学(カナダ)からも日本語に興味のある学生が参加しました。さまざまなトピックに関するディスカッションやゲームを通して、それぞれの国の文化や言語について情報交換が行われました。このイベントは今後も定期的に開催され、さらなる国際交流につながっていくことが期待されます。

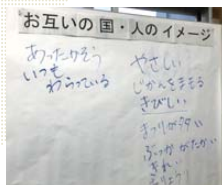


交流会の案内

プリンスオブソクラ大学との交流会を開催しました



交流会参加者の様子



話し合いの板書

2020年10月7日(水)、14日(水)、海外拠点設置合意校であるプリンスオブソクラ大学(タイ、以下PSU)とのオンライン交流会を開催し、2日間合わせてPSUの日本語専攻の学生33名と、本学の学生10名が参加しました。人間文化研究科 椎名涉子准教授の司会により進行し、「お互いの国・人のイメージ」や、「今自国で流行していること」など多岐にわたって話し合い、学生同士の交流が生まれました。グループトークでは参加者同士が積極的にコミュニケーションをとり、お互いの国を行き来できないコロナ禍において、海外との関わりを持つことができる非常に貴重な機会となりました。

PRIZE 受賞

※受賞期間:2020年9月1日~2021年2月28日 ※研究科・学部ごと、受賞日順に掲載

■医学研究科



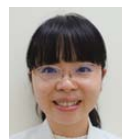
第3回(2020年度)
日本脊椎関節炎学会
七川アツヴィ賞

加齢・環境皮膚科学分野 教授
森田 明理



一般社団法人日本病理学会
令和2年度 日本病理学会
学術研究賞

実験病態病理学分野 准教授
内木 綾



日本臨床麻酔学会 第40回大会
5ミニッツTALKコンペ

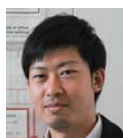
-あなた自身をプロモートしよう- 優秀賞
薬剤部
須藤 遥

■芸術工学研究科



The Architecture Masterprize
2020 Landscape Architecture Award

建築都市領域 講師
大野 暁彦



2020年度(第35回) 日本建築学会
東海支部東海賞(論文賞)

建築都市領域 講師
佐藤 泰



第8回 男女共同参画奨励賞

男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員、
学生および卒業生に対して、学長から表彰を行うものです。今回は3件の受賞が決定しました。

詳細は
こちらから→



【活動/教職員部門】

「Gender Consequences グラフィックデザインワークショップ」

芸術工学部 講師 フィルフォヴァ ネダ

(芸術工学部 ネダ研究室と
ラリオハデザイン大学[スペイン]との共同制作)

【活動/学生部門】

「イーブルなごやフェスティバル2020 実行委員会企画 パープルリボンダンス」

パープルリボンダンスチーム2020

「オリジナル制作の性同一性障害/性別違和 コンテンツの海外啓蒙活動と映画祭での受賞」
映像によるまちづくり(芸術工学部 情報環境デザイン学科)

開学70周年記念事業へのご寄附ありがとうございました (敬称略)

■個人

- 1,000万円以上 鬼武 義幹
- 100万円以上 江崎 柳節、湯口 幹典
- 50万円以上 村松 敬介
- 10万円以上 石黒 功、伊藤 榮源、今井 邦夫、岩井 克殷、岩波 宏明、大川 長行、太田 豊、大竹 直樹、加固 俊男、笠井 志津江、片岡 洋望、勝野 運、河合 米子、黒野 加直子、佐々木 貴、佐竹 章、佐藤 孝道、鈴森 薫、津田 洋幸、角田 桂輔、長縄 伸幸、西川 健一、服部 輝昭、飛田 秀樹、松岡 恒雄、松原 明久、水野 章、吉川 龍雄、吉田 一彦、渡邊 実香、朝元 勇、今井 哲也、岩田 晴幸、加藤 秀章、木村 直美、柴田 偉雄、清水 正己、田中 博、東松 卓介、長尾 敬子、七原 仁人、服部 千香子、土方 康充、福井 圭子、堀 士郎、三宅 能成
- 5万円以上 加藤 哲男、木嶋 正哲、木村 滋、小出 雄彦、小出 久幸、小久保 至浩、坂井田 宏、坂下 利光、志毛 ただ子、千田 勝二、高橋 陸治、田辺 幹景、辻 頭暢、寺田 まち子、寺本 学、中井 輝美、中根 邦雄、中野 敬三、中村 鎮、仁田 正和、蛭川 和男、沼 雅一、橋本 雅司、浜 輝石、深尾 保雄、藤井 吉隆、逸見 智光、松野 保、馬淵 貴好、森 純子
- 1万円以上 青木 恭子、岩佐 浩、鬼頭 等、小出 和雄、高橋 和彦、中畑 稔、根岸 正男、服部 雅則、日栄 康樹、藤原 政志、益井 健斗、松崎 路男、水野 和泉
- 5千円以上 青木 輝雄、浅野 實樹、安藤 恒三郎、飯田 真介、飯田 昌幸、伊賀 登志峰、石川 総由、石澤 雅郎、伊藤 重範、伊藤 進、伊藤 久喜、稲田 充、岩佐 充二、鶴川 真也、宇佐美 郁治、梅村 民子、種田 光成、大矢 興圓、尾崎 明子、織田 孝英、貝谷 久宣、梶原 毅、片岡 政人、勝見 康平、神谷 奈保美、亀井 美智、川北 大介、鬼頭 耕平、木村 多化子、木村 昌弘、久野 孝幸、黒宮 薫、小島 由城経、後藤 尚久、小村 理行、近藤 克彦、近藤 道夫、坂田 成一郎、佐久間 千明、篠原 良孝、柴田 光子、島野 泰輔、志水 哲也、杉野 英司、杉山 識子、須知 万里子、高桑 修、田中 宏紀、玉井 一司、玉井 浩子、寺尾 敏、寺町 信雄、内木 綾、中里 三紀子、永田 英生、中橋 常雄、奈良 廣和、西田 絵美、西松 達郎、丹羽 幸吉、羽鳥 聖七、林 嘉明、日比 陽子、福山 成美、藤井 康史、藤原 圭、堀田 法子、堀 正剛、本多 英邦、本多 康信、松嶋 麻子、松本 隆、水野 純生、三井 章、三宅 勝、村田 さか糸、森 明、森田 祐子、矢野 辰彦、山川 毅、山崎 小百合、山田 憲治、山田 保夫、矢守 信昭、吉岡 成子、吉岡 志郎、吉田 早希、渡辺 勇

■団体

- 1,000万円以上 名古屋市立大学医学部同窓会 瑞友会
- 500万円以上 名古屋市立大学経済学部同窓会 瑞山会
- 200万円以上 株式会社杏林堂薬局 代表取締役会長 瀧美 文昭
- 100万円以上 名古屋市立大学薬学部同窓会 薬友会
- 50万円以上 医療法人ふれあい会
- 5万円以上 瑞山会支部 名古屋市立大学自動車部OB会・同名古屋地区在住者有志
- 非公表 アルフレッサ株式会社、医療法人幸心会のなみ心療クリニック理事長 奥田 幸子、医療法人正育会 春木レディースクリニック、医療法人みどり訪問クリニック理事長 姜 瑠璃、松葉内科 松葉 周三

感謝状贈呈式が行われました

開学70周年記念事業に対して、
高額の寄附をいただきました。
そのご厚意に対し、郡理事長から
感謝状が贈呈されました。



黒野 幸久様



薬友会様



瑞山会様



瑞樹会様



鬼武 義幹様

寄附顕彰 (敬称略)

大学振興基金

■個人

- 5万円以上 高田 節子、福井 圭子
- 5千円以上 亀田 優子
- 非公表 桑原 里美、古賀 剛、小林 建司、山田 成寿

名市大生みらい応援基金

■個人

- 5万円以上 木村 直美
- 非公開 山口 みほ子

■団体

- 100万円以上 名古屋キワニスクラブ 会長 徳岡重信

※五十音順。2020年10月2日から12月31日までに寄附をいただき、公表に同意された方。※インターネットからお申込みいただいた方につきましては、クレジットカード会社または決済代行会社から本学へ入金された日が上記期間に該当する方。※古本募金により寄附をいただいた方につきましては、提携会社から本学へ入金された日が上記期間に該当する方。

募集中!

広報誌「創新」のご意見・ご感想などをぜひ
事務局企画広報課までお寄せください!

▶▶▶ E-mail : ncu_public@sec.nagoya-cu.ac.jp